

# 選ばれるまちへ 首都圏で シティプロモーションを展開

市では、人口減少や高齢化社会が進む中、全国における本市の知名度を向上させる活動（シティプロモーション）を戦略的に展開し、観光人口の増加や企業誘致などの促進を図っています。シリーズ市政の「今」。第36回は、首都圏で本市の魅力在全国へ発信するなど、舞鶴ブランド力の向上を目指した取り組みについてお知らせします。



▲東京記者説明会で取材を受ける多々見市長（9月27日）

## 市長自ら 舞鶴を全国へセールス

引揚記念館所蔵資料のユネスコ世界記憶遺産登録と旧軍港四市の近代化の歴史を体感できる日本遺産認定。後世に継ぐ使命のある2つの「遺産」を持つまち、舞鶴。また、城下町の歴史ある街並みや四季折々の海・山の幸など、数え切れない魅力を持っています。そして日本の将来の国益を見据え、誘致を進めている北陸新幹線京都府北部ルート。

本市の誇るべきこれらの魅力や優位性を全国、そして世界の人々に発信するため、さまざまな分野のメディアを一堂に集めた記者説明会を9月27日、東京都で実施しました。多々見市長自らシティセールスを行うこの説明会は、平成25年度から毎年東京都で開催しており今回が4回目。これまでにテレビ局や新聞社など延べ100人以上の記者に本市の魅力を売り込み、3,000を超える媒体で取り上げられるなど、全世界に向け情報を発信する取り組みを行っています。今月号は、この記者説明会の内容を紹介します。

## 「引揚体験者の平和への願い」を世界へ、未来へ発信

◆1周年を迎えて  
戦争を知らない世代が人口の大半を占め、引き揚げの史実が「過去の出来事」となりつつある中、



▲引揚記念館全国巡回展を横須賀市で開催（9月17日）



▲引揚記念館所蔵資料が世界記憶遺産に登録決定（昨年10月10日）

その歴史とそれに携わった人々の記憶を風化させてはならないとの思いで取り組んだ舞鶴引揚記念館所蔵資料のユネスコ世界記憶遺産登録。その登録から1周年を迎えるにあたり、本市から世界、そして未来への発信事業として、来年

2月17日(金)と18日(土)に海軍鎮守府開庁から戦後の引き揚げ、現代へと歩んできた本市の魅力を紹介する「舞鶴100年の鼓動展(仮称)」を東京都内で開催するほか、本市と同じ旧軍港都市である横須賀市、呉市、佐世保市で「舞鶴引揚記念館 全国巡回展」を横須賀市を皮きりにスタート。また、平成31年度に京都市で開催予定のICOM(国際博物館会議)の分科会(国際委員会)や見学会を、また、平和学習として全国から教育旅行の誘致活動などに積極的に取り組んでいることお知らせしました。

整備工事の基本設計に着手しています。第2期整備工事では、若い世代が体感できる空間展示「抑留生活体験室」の整備や約1,300点の収蔵絵画を活用するための「企画展示室」と「収蔵庫」を増築予定。早期の整備完了を目指し、さらなる施設の機能強化について説明しました。

## ◆「企業版ふるさと納税」の支援を呼びかけ

「ふるさと納税」による全国の皆さんからの寄付を昨年度から引揚記念館の事業に特化して活用しています。さらに今年度、国で創設された地方創生応援税制「企業版ふるさと納税」の第1弾となる全国102事業の1つに8月、本市の「引き揚げの史実継承プロジェクト」が認定され、全国の企業から支援を受けやすい体制が整いました。「引き揚げの史実」を後世

へつなぐ第2期整備工事などの事業を推進するため、支援の輪を全国の企業へ広げてもらうよう協力を呼びかけました。

の1環として実施することで舞鶴ブランドの認知度向上を目指す取り組みについて大きくPRしました。

## 日本遺産認定を契機とする 観光誘客事業

本年4月、海軍鎮守府開庁から旧軍港都市として同様の歴史を持つ横須賀市、呉市、佐世保市とともに申請した「日本近代化の躍動を体感できる歴史ストーリー」が日本遺産に認定。近代化とともに歩んだ構成文化財の魅力の発信にも取り組みます。旧軍港四市で組織する推進協議会(会長・多々見良三・舞鶴市長)が、11月11日(金)・12日(土)に東京スカイツリーで「鎮守府 横須賀 呉 佐世保 舞鶴 フェスティバル 東京」を開催。記念フォーラムや近代化遺産展、四市観光物産博などを「来てーな舞鶴2016キャンペーン」

## 北陸新幹線「京都府北部ルート」の誘致

現在、政府与党で検討されている北陸新幹線の敦賀以西ルートは、府北部地域が実現を目指している「京都府北部ルート」のほか、「小浜京都ルート」、「米原ルート」が協議されており、本市を中心とする府北部地域は、①陸・海・空の自衛隊などが集積する「国防の拠点」②第八管区海上保安本部などが所在する「海の安全の拠点」③火力発電所などを有する「関西経済圏のエネルギー拠点」④南海トラフ地震などにも対応する「リダンダンシー機能(※)」を備えたエリア⑤年間約1,000万人の観光入込数を誇る「海の

京都観光圏」⑥日本海側では富山市に次ぐ製造品出荷額を誇る「ものづくり産業基盤地域」の6つの機能を有する日本海側の重要地域であることを説明しました。

そして、この重要地域を結ぶ「京都府北部ルート」は、「山陰新幹線」との接続による「日本海側国土軸」の形成と南北を結ぶ「日本海・太平洋2面活用型国土」を実現する「最重要ルート」であり、将来の日本の国益に必ずつながることを強く訴えました(9ページ関連記事)。また、「山陰新幹線の早期実現と北陸新幹線京都府北部・南部ルートの決定を求める総決起大会」を10月26日、東京で開催。今後もこの取り組みを全国に広げ、賛同する多数の国会議員と一致団結して実現に向け国に強く求めていくことをアピールしました。



▲第2期整備工事の抑留生活体験室のイメージ



▲東京記者説明会では抑留者で作者の木内信夫さんのインタビューも開催（9月27日）



▲日本遺産の登録決定（4月25日）



▲北陸新幹線京都府北部ルート決起大会（3月5日、綾部市）



▲北陸・山陰新幹決起集会（7月30日、鳥取県）